

プレ・ポストディッピングの仕方

ポストディッピング、プレディッピングは何のために行うのであろうか？そしてどのように行わなければいけないのであろうか？

多くの酪農家のディッピング作業を見ていると、ディッピングを行うこと、することが目的があり、何のためにどのようにすればよいかということが不明確である。しているしていないの明確な返事はあるが、ではどのようにしている、どこに注意をして行っているとい質問には明確な返答はない。

プレディッピングは乳頭壁と乳頭口の消毒であり、乳頭の細菌数を減らすことを目的としている。乳頭壁に満遍なくすき間なくディッピング液が漬くことが必要である。これが唯一の搾乳前準備の水分である場合には尚更である。乾いた汚れを乾いたタオルでは綺麗にはできない。乳頭壁に満遍なく液が付き、汚れを取りやすくしなければいけない。

ポストディップでは、乳頭壁に付着した牛乳成分を取り除き、細菌の繁殖を抑えなければいけない。これが抑えられないと、次回の搾乳時まで乳頭に多くの乳房炎細菌を繁殖させ、次回搾乳時に乳頭を綺麗に拭ききれなくなる。結果として乳房炎のリスクを上げることになる。

①スプレーディッピング

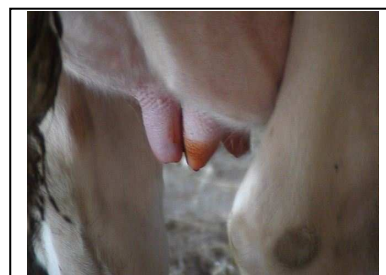
直ちに止めなければいけない。多くの乳頭に確実に満遍なくディップ液を付着させることは不可能である。ただ空気中に液を噴霧したり、片側のみに液が付着することが多い。単純に考えて、1日数百本の乳頭に確実にディップ液を付着させようと考えれば、その都度丁寧に噴霧角度を変え、綺麗に付着させようとする行動そのものに無理がある。

写真は横から噴霧したことが明瞭に判るポストディッピングである。良い結果は得られないので、直ちに止めるべきである。確認をしていないからこれで十分と勝手に思いこむ人や、全く良否を考えない人もいる。



②浸漬型ディッパー(ノクターン)によるディッピング

スプレーから浸漬型ディッパー(ノクターン)に代えれば事が足りるものでもない。どのようにディップ液が着くべきかを考えて行わなければいけない。これもスプレーのように形だけになっている事が多い。いずれの写真もディップ液のカバー率は低い。

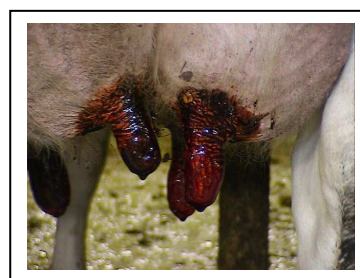


③ディッピングを上手にするためには

ディッピングを上手にするためには、ゆっくりと落ち着いて確実な作業をすることである。ディップ後必ず液の付着具合を目で確認するようにすると良い。ディップの作業時間を調べてみると、カバー率が低い人では2から3秒で4本のディップを終了している。確実に付着させようとするのであれば、5から6秒以上の時間を必要とすべきであろう。

ポイント：

乳頭をディッパーに入れてから、ディッパーを少し握り液を出す。このようにすると乳頭基部まで確実に液が付着する。何回も乳頭にディッパーを入れるのではなく、1回入れて、ディッパーを軽く握るのがコツである。このやり方では、写真のように乳頭基部まで確実にディップ液が付着する。



④便利な道具

プレ・ポスト共にディッパーは常に体に取り付けて持ち歩くと良い。必要なときにすぐに行えるようにする。この事が動く歩数や、しゃがむ回数を減少させ、搾乳作業を楽にする。パーラーでも同じ事で、1歩減少させる事が搾乳時間を通しての多くの歩数を減少させる。



検乳カップ、プレ・ポストディッパー、ペーパータオル入れが揃った搾乳ポシェット。タオルを使う人は右写真のように小さなタオル入れを取り付ける。これを利用すると、つなぎ牛舎では牛の間に入ったらすべての作業を終了させて出てこられるようになる。ミルクカーを外すときにも同じである。大幅に歩数としゃがむ回数を減らすことが可能となる。(筆者考案道具)